

【ポスター発表（1）】

団体名：特定非営利活動法人多文化共生センター大阪

<団体概要>

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で被災した外国人への情報提供や電話相談を行う「外国人地震情報センター」が前身。以後、「基本的な人権の尊重」、「少数者の力づけ」、「社会へのアプローチ」の3つの方向性に基づき、国籍、言語、文化や性のちがいを認め、尊重しあう「多文化共生社会」の実現をめざして活動しています。



法人格取得：2000年8月1日

代表理事：田村太郎

住所：〒532-0023 大阪市淀川区十三東 2-6-7 徳島ビル 2階 ダイバーシティホ大阪内

TEL:06-6390-8201 FAX:06-6195-8812 E-mail: osaka@tabunka.jp

<事業概要>

■日本で生活する外国人への支援事業

日本語教室の運営や、情報提供を行っています。

多文化な子どもたちの学習支援教室『サタデイクラス』 <http://blog.canpan.info/saturdayclass/>

外国人母子の生活支援事業 <http://tabunka.jp/boshi2013/>

■多文化共生に関する研修・調査・研究

『多文化共生を考える』『多文化共生の基礎を学ぶ』など

多文化共生についての基礎から学ぶ研修や災害時に

外国人住民を支援する災害時サポーター、通訳ボランティアの

養成講座、避難所運営訓練なども実施しています。

■多文化共生の概念を普及するための啓発及び情報発信 報告書、CD等の発行の発行を行っています。

『災害時に役立つ！通訳・翻訳ボランティアガイドブック』

『多文化子どもの歌集 Ciranda Cirandinha』

『多文化共生に関する自治体の取組みの現状』

『外国人従業員受け入れに関する調査報告書』など



●多文化な子どもたちの学習支援教室『サタデイクラス』風景

事業実施概要

事業名称	定住外国人の漢字学習支援
地域の課題	現在の大阪市の状況は、基礎日本語会話については、公的機関により教室が開催されているが、文字習得に関しては、生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う教室がない。また民間の日本語学校においては生活言語が基本となっておらず、受講料も高価である。一方で、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないか、適切な指導がなされておらず、漢字学習の挫折につながっている。
事業の目的	学習者が日常生活において必要な漢字を認識すること、自律して学習できるようになることを目標とする。留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」とよばれる人たちは、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。
事業の概要	<p>日本語教室の設置・運営</p>
	<p>名称：定住外国人のための「生活の漢字」教室　ーパソコンで楽しく学ぶー 目的：日常生活に必要な漢字を認識すること、自律して学習できるようにすること。 対象：漢字の読み書きを習得したいと思っている外国人など 人数：24 人（主な出身・国籍：韓国，中国，タイ，フィリピン，メキシコ，キューバ） 時間：週 1 回×2.5 時間（全 24 回） 内容：パソコンを利用して生活に必要な漢字を学習する。</p>
	<p>日本語教育を行う人材の養成・研修の実施</p>
	<p>名称：定住外国人のための漢字学習支援者養成講座 目的：地域の日本語教室で漢字学習を支援するための知識やスキルを習得してもらう。 対象：日本語教室等でボランティアをしている人、したい人。 時間：週 1 回×2.5 時間（全 12 回）人数：20 人（出身・国籍：日本、韓国・朝鮮） 内容：定住外国人の現状，漢字学習支援の基礎知識，漢字教室見学，教材作成と発表。</p>
連携体制	<p>日本語教育のための学習教材の作成</p>
	<p>名称：見て学ぶくらしのなかの漢字 2 目的：日常生活に必要とされるトピックを選定し，漢字語彙を自律的に学習できる能力を身につける教材を作成する。 対象：漢字を学びたいと思う定住外国人 構成：写真編，漢字のルール編，24 課（1 課 6 ページ）　総ページ 144 ページ</p>
成果と課題	生活の漢字をかんがえる会（新庄あいみ・新矢麻紀子・永井慧子・御子神慶子・WOO Wai Sheng）、大阪市立総合生涯学習センター
発表者から一言	受講生のアンケート結果を見ると、目標はほぼ達成できたといえる。課題としては、教室が 1 年単位の開催であるので、限られた場面の漢字しか扱えないこと等が挙げられる。
	H18 年度より漢字教室を開いています。修了者からは、教室を開いてくれた日本政府に御礼を伝えてほしいと言われてきました。この場を借りて、御礼申し上げます。また、定住外国人の学びの場への支援が今後も続くことを願っております。